

「京都大学(北部)総合研究棟改修(農学部総合館)施設整備等事業」実施方針に関する意見一覧表

意見番号	タイトル	頁	項目				意見内容	備考
1	附属資料について						追加資料をいただきましたが、今後現況についての資料の公開はこれ以上は予定されていないのでしょうか。既存建物の改修を行なった実績のある企業と情報量に大きな差があることから、競争条件において不公平になる懸念があります。	
2	応募者からのヒアリングについて						要求水準署(案)の公表後、大学と応募者との意見交換の場を設けていただければ、大学のニーズ等もより明確になり、採り入れていただける意見があった場合には、入札説明書にそれを反映していただくことが可能になります。御ニーズに合ったよりよい提案がなされるために何卒ご検討をお願いします。	
3	提案審査	9		2	(5)	2) イ	応募する事業者側の入札にかかる費用が多額であることが想定されるため、入札価格での失格による提案書作成が無駄になることを防ぐ目的で、入札価格の上限を公表して頂けないでしょうか。	
4	添付資料 リスク分担表	1	共通	20			設計・改修段階では基本的に事業者側でリスクを負担して見積を行ない、入札を行っていますが、近年通常の想定範囲をはるかに超える物価変動が部材によっておこっており、事業者の負担となっている例が見受けられるため、通常の想定範囲を超える事象については、協議する余地を残して頂けないでしょうか。	
5	6期に分けられた工期の工事対象範囲	2	1	(1)	9)	7 ②	6期に分けられた工期の工事対象範囲は、改修に伴う諸室の移転等、大学の判断によるものと考えますので、大学から提示されるようお願いいたします。	
6	リスク分担表 設計・改修工事段階の金利変動リスク	1	18				設計・改修工事段階の金利変動リスクが事業者負担とされていますが、これでは民間事業者としては事業契約締結時などの早い段階で金利固定を図らざるを得ず、スプレッドや金融費用など逆に高い提案になるものと考えます。 全体工期は6期に分けられる予定となっていますが、各期に合わせた基準金利の決定時期を考慮頂くようお願いいたします。	
7	リスク分担表 設計・改修工事段階の物価変動リスク	1	20				現在は極端に低率の物価変動状態であるものの、いずれ数%程度の物価上昇局面を迎えることは避けられないと考えますが、設計・建設期間が丸4年と長期間であることも踏まえ、急激なインフレ、デフレの場合は見直し可能として頂くよう希望します。(予め物価上昇を見込んだ価格を提示することになれば、大学にとっても不経済であると考えます。)	